

第39回 日本脳性麻痺研究会

プログラム・抄録集

テーマ

「脳性麻痺に対するニューロリハ」
～ 新技術への挑戦 ～

会 期 ◆ 平成24年 6月2日(土)

12:00会場 12:55開始

会 場 ◆ 福岡国際会議場

5階 501国際会議室

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1

会 長 ◆ 佐伯 満

北九州市立総合療育センター

ごあいさつ

第39回日本脳性麻痺研究会の開催にあたり、一言ごあいさつさせていただきます。

今回のテーマを「脳性麻痺に対するニューロリハ ― 新技術への挑戦 ―」とさせていただきます。企画するに当たり国立長寿医療研究センターの近藤和泉先生には多大なご指導、ご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

近年の運動制御理論、学習理論、脳科学の発展は目を見張るものがあります。ブラックボックスと表現されていた脳とその機能が徐々に明らかにされ、脳性麻痺のリハビリテーションに関してもそれらの新知見に根拠をもつような変革がなされています。

このような進歩は障害をもつ子どもたちやご家族にはもちろん朗報であります。しかし同時に1970年代からの脳性麻痺の早期発見・早期療育の時代を経験したものとしては多少の懸念も感じます。当時の日本においてはファシリテーションテクニックと総称されていたボバースアプローチやボイタ法などが脳性麻痺治療の主流でした。それらは結果的には機能改善あるいは治癒を目的としたものとして一世を風靡しました。そのような治療や運動をおもに主導したのが私たち肢体不自由児施設の関係者です。

その後脳性麻痺の子どもはやはり脳性麻痺の大人になる事実が認識されるに従い、早期発見から「一生を見通す療育」へ、子どもと家族が依存する療育ではなく「自立する療育」へ、訓練室内での療育ではなく「生活の中での療育」へ、など新たな療育の在り方を模索してきました。また発達理論、運動制御理論や学習理論の新しい知見からも、子どもにとって意味のある、生活の中での文脈に沿った、課題に応じた、繰り返しの実践が重要であると認識されており、Functional therapy や Task-oriented approach など様々な呼び方で新しいアプローチ法も提唱されています。

このような経緯を踏まえて、新しい治療法のメリットや限界も含む正確な情報を得ること、そして子どものQOLや活動、参加をより豊かなものとするような実践ができればと考えています。今回の研究会がそのような役に立てば幸いです。

平成24年6月2日

第39回日本脳性麻痺研究会

会長 佐伯 満

(北九州市立総合療育センター)

ご 案 内

日 時：平成24年6月2日(土) 12:55～17:30
第49回日本リハビリテーション医学会学術集会 2日目

会 場：福岡国際会議場 5階501国際会議室
〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町2-1
電話 092-262-4111(代表)

アクセス：次ページの案内図をご覧ください。

参加資格：特になく、医師以外のリハスタッフ、療育関係者等の参加も歓迎します。

参加申込：当日、会場にて受け付けます。事前申し込みは不要です。

参加費：会員・非会員とも3,000円(学生は1,000円、学生証等をお見せ下さい)
第49回日本リハビリテーション医学会学術集会参加者は、無料です。

年会費：日本脳性麻痺研究会会員の方は年会費3,000円をお納めください。

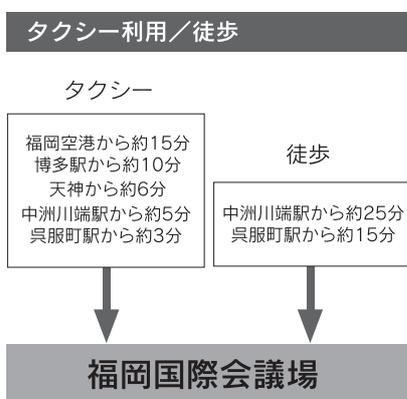
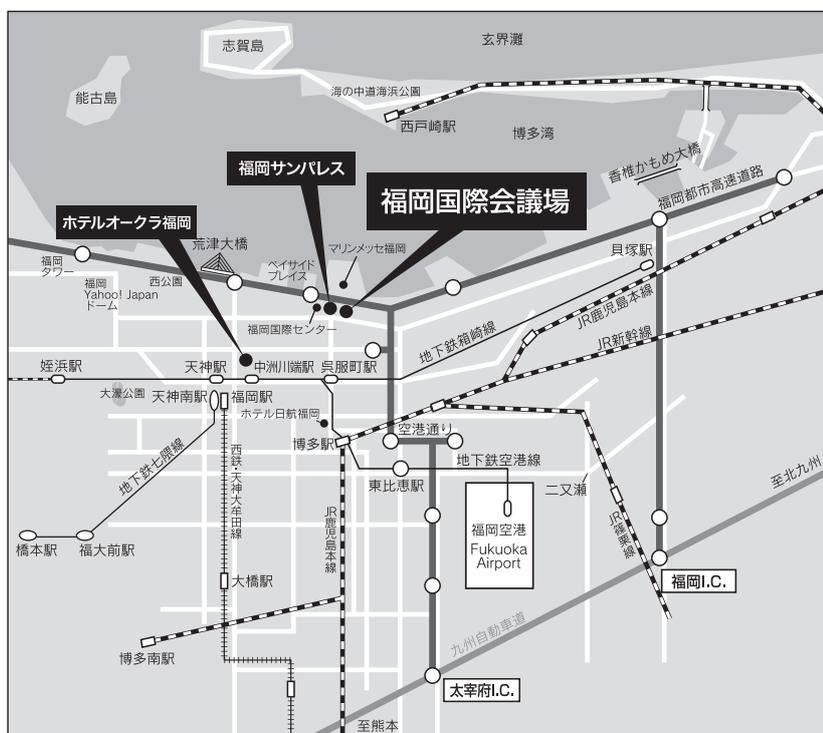
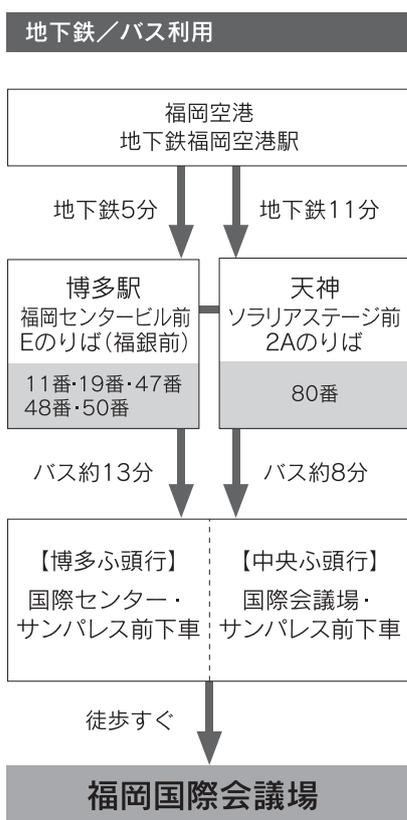
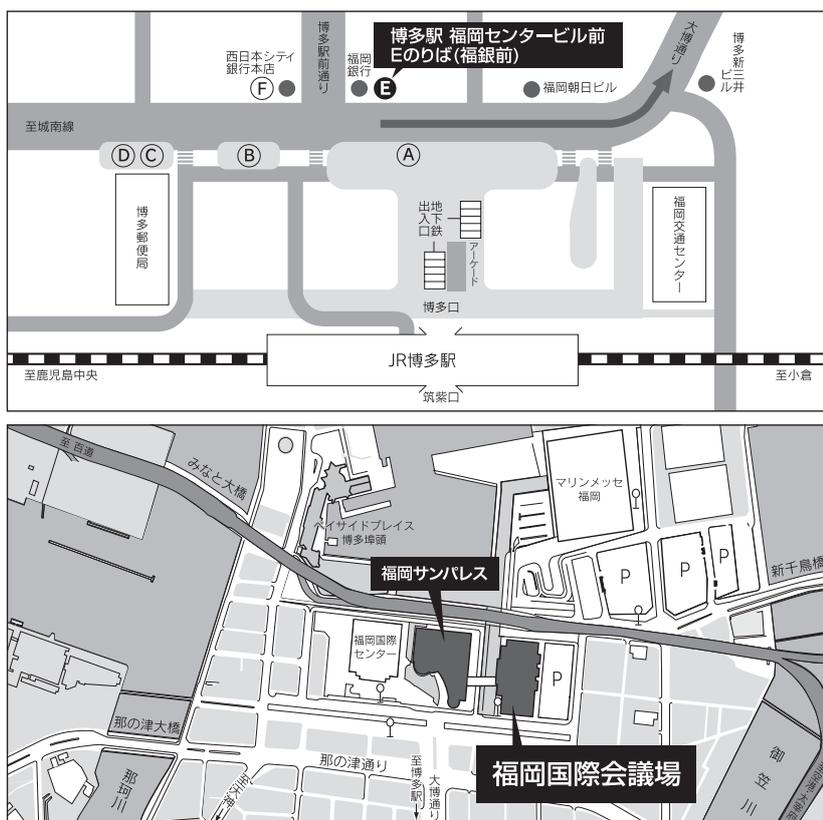
新規入会：療育に関係する方はどなたでも入会できます(入会費無料)。
入会希望の方は、当日会場受付で入会申込書にご記入の上、年会費とともにお申し込み下さい。

受講単位：○日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修単位
本研究会参加により「関連学会参加単位」として10単位が認められます。
例年学会誌2月号に掲載される「単位取得自己申告申請の手引き」に従い、ネームプレートまたは領収書のコピーを日本リハビリテーション医学会にお送り下さい。
基調講演、講演1は、教育研修講演として各10単位が認められます。
同様に受講証明書を日本リハビリテーション医学会にお送り下さい。
○日本整形外科学会認定教育研修単位
基調講演、講演1はそれぞれ1単位を取得することができます(必須分野番号 3. 小児整形外科疾患、13. リハビリテーション)。

問合せ先：北九州市立総合療育センター
第39回日本脳性麻痺研究会 事務局 上野 仁
〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10-2
TEL：093-922-5596 FAX：093-952-2713
E-mail：shom@kitaq-src.jp

日本脳性麻痺研究会事務局：
心身障害児総合医療療育センター内
〒176-0037 東京都板橋区小茂根1-1-10
TEL：03-3974-2146 FAX：03-3554-6176

会場アクセス図



福岡国際会議場

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1
 TEL:092-262-4111 FAX:092-262-4701
 URL <http://www.marinemesse.or.jp/kaigi/>

プログラム

12:00 受付開始

12:55～13:00 開会あいさつ

13:00～14:00 基調講演

座長：佐伯 満

〔ニューロリハと脳性麻痺治療の未来〕 〔神経発達と可塑性〕

近藤 和泉（国立長寿医療研究センター 機能回復診療部 部長）

14:00～15:00 講演 1

座長：近藤 和泉

〔運動学習再考〕

才藤 栄一（藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学1講座 教授）

15:00～15:20 休 憩（総会は配布資料によって行います）

15:20～16:10 講演 2

座長：近藤 和泉

〔光による脳機能イメージング〕 〔『光トポグラフィ』とその応用〕

佐藤 大樹（日立製作所中央研究所）

16:10～17:00 講演 3

座長：近藤 和泉

〔さい帯血中の幹細胞による脳神経再生〕

大野 典也（東京慈恵会医科大学微生物学講座第一 名誉教授）

17:00～17:30 総合討論

司会：近藤 和泉（国立長寿医療研究センター 機能回復診療部部長）

佐伯 満（北九州市立総合療育センター 所長）

ニューロリハと脳性麻痺治療の未来 神経発達と可塑性

近藤 和泉

国立長寿医療研究センター 機能回復診療部

ニューロリハビリテーションの基盤となる神経科学(ニューロサイエンス)の知見から乳児から幼児における脳内の神経ネットワークの形成過程と可塑性について概説する。併せてニューロリハビリテーションが今後、小児領域へどのように関わって行くべきかに関して考察する。日本国内でも今後、ニューロリハビリテーションが大きく展開して行くと考えられるが、それが脳性麻痺の療育に及ぼす影響などについても触れたい。

略 歴

〈現 職〉 独立行政法人国立長寿医療研究センター 機能回復診療部 部長
認知症先進医療開発センター 在宅医療・自立支援開発部 部長(兼任)

〈略 歴〉

昭和57年 弘前大学医学部卒業
平成元年 大学院(リハビリテーション医学専攻)を修了
平成7年 弘前大学医学部附属 脳神経疾患研究施設 リハビリテーション部門 助教授
平成14年 弘前大学医学部附属病院リハビリテーション部 副部長(助教授)
平成18年 輝山会記念病院(副院長)
平成20年 藤田保健衛生大学 藤田記念七栗研究所 リハビリテーション研究部門 教授
平成22年10月～ 現職

〈留学等〉

昭和63年 LondonのBobath Centerにおける脳性麻痺児の神経発達学的治療コースに参加・修了
平成8～9年 カナダ、McMaster 大学に留学

〈学会・社会活動〉

日本リハビリテーション医学会
中部・東海地方会 / 代表幹事, 専門医会 / 副幹事長, 小児リハ SIG / 担当幹事, 評議員,
脳性麻痺ガイドライン策定委員会 / 委員, 会則検討委員会 / 委員, 選挙の在り方委員会 / 委員
日本義肢装具学会 / 評議員
日本摂食嚥下リハビリテーション学会 / 評議員
日本脳卒中学会 / 評議員
産科医療保障制度審査委員会 / 委員
JJCRS / 編集委員
Academy of Multidisciplinary Neurotraumatology / 2nd Treasurer
第二回日本ニューロリハビリテーション医学会学術集会 / 会長(2/12/2011)

〈業 績〉

欧文原著 主著6、平成22年度リハ学会最優秀論文賞受賞

〈専門領域〉

小児リハ、骨・関節疾患のリハ、脳卒中のリハ

運動学習再考

才藤 栄一

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学

リハビリテーション医療の理解には、行動科学的概念が役立つ。その代表が運動学習である。リハビリテーション医療という文脈の中で、スキル(熟練動作)の学習過程で戦略的に重要な事項、すなわち、転移、動機づけ、行動変化、保持・般化についてシステムの論点も加えて解説し、また、行動変化の変数である練習量・頻度、課題難易度、フィードバックに触れる。さらに今後の展開も議論する。

略 歴

1980年 慶應義塾大学医学部卒業
慶應義塾大学医学部助手、東京都リハビリテーション病院医長、藤田保健衛生大学医学部助教授などを経て、現在、藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座教授、同大学副学長

専門領域：リハビリテーション医学、摂食・嚥下障害、リハビリテーション機器、歩行再建、動作解析、リハビリテーション心理学、など

著 書：摂食・嚥下リハビリテーション第2版、医歯薬出版(2007)、FITプログラム、医学書院(2003)、リハビリテーション医療心理学キーワード、文光堂(1995)、など

社会活動：学校法人藤田学園理事、Johns Hopkins 大学客員教授、日本ニューロリハビリテーション学会代表理事、全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会会長、日本リハビリテーション医学会理事、日本義肢装具学会副会長(理事)、Dysphagia 編集委員、American Journal of Physical Medicine and Rehabilitation 編集委員、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会理事長(06.01-11.08)、など

光による脳機能イメージング 『光トポグラフィ』とその応用

佐藤 大樹

日立製作所 中央研究所 ライフサイエンス研究センター

光トポグラフィは、可視から近赤外領域の微弱な光を頭皮上から照射・検出することにより、大脳皮質の局所血行動態を可視化する無侵襲脳機能イメージング技術である。この技術は、特別な計測室を必要とせず、被験者に光ファイバを装備した計測キャップをかぶせるだけで計測できるため、多少の動作を伴う場合でも適用できる。そのため、新生児～乳幼児の計測に適しており、脳機能の発達過程を解明するツールとして活用されている。本発表では、光トポグラフィの計測原理を説明するとともに、その発達研究への応用例を紹介する。

略 歴

- 1998年 国際基督教大学 教養学部 卒業
- 2000年 東京大学大学院 総合文化研究科(認知行動科学) 修士課程修了
(株)日立製作所 入社
- 2006年 博士(工学)取得(慶應義塾大学大学院 理工学研究科)
- 2011年 (株)日立製作所 中央研究所 主任研究員(現在に至る)

〈学会活動〉

所属学会：日本神経科学会、Society for Neuroscience、日本認知心理学会

〈業 績〉

欧文原著論文：主著9、共著16

〈専門分野〉

脳機能計測技術(近赤外分光法)、認知科学(言語認知、ワーキングメモリ)

さい帯血中の幹細胞による脳神経再生

大野 典也

東京慈恵会医科大学微生物学講座第一 名誉教授

キーワード：再生医療、多能性幹細胞、臍帯血、脳性マヒ、先天性水頭症

幹細胞(ステムセル)による再生医療に関しては多くの研究がなされている。初期には胚・胎生工学技術の進展から、胎生幹細胞の神経系の分化再生の研究、iPS 細胞の発見と、一連の目覚ましい研究成果が報告される。

一方、我が国に於いては、再生医療のフロントランナーである、自己臍帯血中の多能性幹細胞の有用性についての報告は少ない。

既に、米国に於いては自己臍帯血による小児脳性マヒや低酸素性虚血性脳症に対する臨床治験の第II相が開始されている現状にある。また先天性の水頭症に関しても、この治療方法が極めて有効であると報告されている。自己さい帯血による再生医療の分野での先駆的研究を実施している米国デューク大学での治療の実際と現状を中心に報告します。

本講演では最先端の再生医療の現状として、自己さい帯血による脳神経系の再生医療の現状を報告し、その上で、臨床応用へ向けての現状と課題とその解決に向けての試案を提示したい。

略 歴

昭和40年3月	東京慈恵会医科大学卒業
昭和41年4月	第40回医師国家試験合格
昭和41年4月	東京慈恵会医科大学大学院入学
昭和42年4月	慶応義塾大学・医学部・分子生物学教室 助手
昭和47年6月	医学博士の学位受領
昭和47年10月	コロンビア大学医学部癌研究所 研究員
昭和49年3月	コロンビア大学医学部癌研究所 主任研究員
昭和52年9月	コロンビア大学医学部癌研究所 助教授
昭和54年10月	コロンビア大学医学部癌研究所 教授に就任
昭和56年10月	東京慈恵会医科大学第1細菌学教室 教授に就任
昭和56年10月	コロンビア大学医学部癌研究所 客員教授を兼任
昭和58年6月	コロンビア大学医学部癌研究所 客員教授を辞職
昭和58年7月	ハーバード大学医学部 客員教授に就任
昭和60年2月	AMBO を主催
昭和63年4月	文部省科学研究費「AIDSの総合的基礎研究」班員(平成7年3月31日迄)

平成6年2月	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所 初代所長を兼任
4月	Jikeikai Medical Journal 編集長を就任
5月	第1回遺伝子治療研究会ワークショップ 代表世話人(東京・ヤクルトホール)
平成8年4月	文部省ハイテクリサーチセンター整備事業 研究代表者
平成9年	特定疾患調査研究評価委員
平成11年2月	大規模災害時の医療に関する国際フォーラム 代表世話人(東京・日本赤十字社ビル)
平成12年4月	文部科学省バイオベンチャー研究開発拠点整備事業 研究代表者 医薬品副作用被害救済 研究振興調査機構治験 相談顧問(委嘱期間 平成16年3月31日迄)
平成13年7月	The Japan Society of Gene Therapy : The 7th Annual Meeting 会長 (東京・一橋記念講堂)
平成14年9月	バイオベンチャー研究開発拠点整備事業・ 大学一号館完成記念国際シンポジウム代表世話人
平成15年3月	定年退任
平成15年4月	名誉教授
平成20年4月	東海大学医学部 客員教授
平成23年3月	同上退任
平成23年11月	高知大学 特任教授

〈賞 罰〉

昭和46年11月	慶応義塾大学医学部 三四会賞を授与される
昭和59年10月	東京慈恵会医科大学 第16回永山賞を授与される
平成22年2月2日	2010 Japan Venture Awards 社会貢献特別賞 受賞

〈学会関係〉

日本遺伝子治療学会	理事
日本癌学会	評議員
日本ウイルス学会	評議員
日本性感染症学会	評議員
日本遺伝子治療研究会	代表世話人
日本医学英語教育学会	理事

〈専門分野〉

腫瘍免疫学、遺伝子治療、再生医療、ウイルス学、分子生物学

協 賛 会 社

株式会社有菌製作所

小野薬品工業株式会社

株式会社トーショー北九州営業所

有限会社浪速酸素商会

株式会社マルコ

有限会社みやくほ義肢製作所

(以上、五十音順)

第39回日本脳性麻痺研究会 プログラム・抄録集

世話人：佐伯 満

事務局：北九州市立総合療育センター

担当：上野 仁

〒802-0803 北九州市小倉南区春ヶ丘10-2

TEL：093-922-5596 FAX：093-952-2713

E-mail：shom@kitaq-src.jp

出 版：(株)セカンド
Secand 株式会社セカンド
学会サポート <http://www.secand.com/>

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025